

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	3 (4) 高等学校
				領域名	E S D
研究課題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
指定年度	平成 27 年度～平成 28 年度				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	ほっかいどうしゃりこうとうがっこう 北海道 斜里 高等学校 (186 人)				
所在地 (電話番号)	〒099-4116 北海道斜里郡斜里町文光町 5 番地 1 (0152-23-2145)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.shari.hokkaido-c.ed.jp				
研究のキーワード	<p>「世界自然遺産・知床」 「総合学科教育」 「キャリア教育」</p> <p>「地域の教育力の活用」 「学校の教育力の向上」</p>				
研究結果のポイント	<p>○ 【中心となる取組】：「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとした E S D 活動（環境・地域学習の実践における 1 枚ポートフォリオ（O P P）を通じた取組の検証</p> <p>○ 【波及 1】：学科教育活動・キャリア教育の改善・充実（E S D に位置付けての実践）に係る O P P による検証</p> <p>○ 【波及 2】：各教科・科目、特別活動等への E S D の波及に係る O P P による検証</p> <p>○ 【波及 3】：課外活動等への E S D の波及に係る O P P による検証</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとした E S D 活動の改善・充実、及び学校の教育活動全体への E S D の波及 ～ E S D による、地域に誇りを持ち、地域の持続発展に貢献できる人材の育成 ～

(2) 研究主題設定の理由

ア 生徒（子供たち）に関わる現状と課題

学校のある斜里町は「世界自然遺産・知床」を擁する豊かな自然環境に恵まれた土地である。また、オホーツク海の豊かな水産資源の恩恵を受けた漁業と斜里平野での大規模畑作農業を展開する第一次産業の基地としても重要な地域である。

本校の生徒は、ほとんどが斜里町の出身者であるが、豊かな自然環境や歴史・文化、豊穡の大地の中で育ってきているものの、あまりにも身近であるため、それらの希少性・重要性への気付きや、持続発展させていく責任の認識が不十分である。また、限定的な生育環境や交友関係から、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や地域の魅力等に誇りを持って発信する気概、表現する能力等にも課題が見られる。

イ 本校におけるこれまでの取組

本校では、平成 16 年度の総合学科への学科転換を機に、地域の豊かな自然を教材とした特色ある教育活動として学校設定科目「知床自然概論」を設定し、「知床」が世界自然遺産に登録された平成 17 年度から授業を開始した。その後、特別活動として「知床自然体験学習」と「史跡発掘体験学習」、地域産業と連携した商業科目「課題研究」等を導入し、地域の教育力を活用した地域理解を促す教育に

取り組んでいる。

これらの実施に当たっては、「産業社会と人間」や総合的な学習の時間ともあわせて、報告会等の発表機会を取り入れ、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力の育成等、課題解決を目指している。平成23年1月には、これらの地域をフィールドとした実践によって、本校のユネスコスクール加盟が承認された。

ウ 研究主題設定の理由

本校においては、本研究指定校事業を通して、これまで実践してきた「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとしたE S D活動を検証し、取組の改善・充実・持続発展を図るとともに、E S Dの理念を全教科・科目、特別活動、課外活動等へと波及させ、学校の教育活動全体を通して、生徒に関わる課題の解決に向けた実践を行うこととした。このようなことから、本研究指定校事業に係る本校の研究主題を「『世界自然遺産・知床』等、地域をフィールドとしたE S D活動の改善・充実、及び学校の教育活動全体へのE S Dの波及 ～ E S Dによる、地域に誇りを持ち、地域の持続発展に貢献できる人材の育成～」とし、生徒に、地域の魅力等の気付きや、地域に誇りを持って情報発信する気概、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力等を育み、魅力的な学校としての持続発展や、将来の地域を担い、地域を持続発展させる人材の育成へとつなげることを目的として実践研究を行うこととした。

(3) 研究体制

ア 校内における研究推進体制

(ア) 実践の推進組織（中心となる組織）【構成メンバー】

- ① ユネスコスクール活動推進委員会【教頭、教務主任、進路指導主事、理科主任、地歴・公民科主任】
- ② ユネスコスクール活動推進委員会拡大委員会【必要に応じて、①の委員会+関係教科主任等】

(イ) 各分掌及び教科・科目等の取組推進に係る教職員の組織【構成メンバー】

- ① 校務運営会議【管理職、各分掌部長、各年次主任】
- ② 職員会議【管理職、教職員、行政職員(事務主任)】

イ 関係機関等との連携（研究への外部からの支援）

(ア) 教育関係機関

- ① 北海道教育委員会(オホーツク教育局等)、斜里町教育委員会、斜里町内小中学校、等
- ② 斜里町立知床博物館、知床財団、知床森林生態系保全センター、等

(イ) 大学

北海道教育大学釧路校（E S D推進センター）、札幌国際大学、東京農業大学、等

(ウ) ユネスコ関係

知床ユネスコ協会、北海道ユネスコ連絡協議会、等

(4) 2年間の主な取組

平成 27 年 度	<p>ア 管理職の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・学校経営シラバスへのE S D活動推進の明記（項目立）（4月）・研究指定校事業連絡協議会出席、成果の教職員周知（5月） <p>イ ユネスコ活動推進委員会等の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・目標（生徒に身に付けさせたい力等）検討、全体提示（4月）・研究推進・評価(検証)方法等検討、E S D全体構造図・全体計画(案)作成、全体提示（4～5月）・各教科・科目における取組指標作成、全体提示（4～5月）・研究指定校事業連絡協議会出席、成果の教職員周知（5月）・先進校視察による効果的な実践事例等の情報収集（8～11月）・成果報告書（中間報告）の作成（3月） <p>ウ 教職員の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・知床・産業系列関係科目の授業開始（4月）・校内研修会の実施（実践の方向性等の明確化、視察報告・協議会報告等）（11月）・学校評価(自己評価、学校関係者評価等)へのE S D関係項目の導入(検討)、評価の実施(実践の検証)（2月）・成果と課題を踏まえた次年度全体計画等改善、教育課程編成、指導方法改善等への反映（2～3月） <p>エ 生徒の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリア教育に関わる活動、生徒会活動、課外活動等における自主的な活動の推進（通年）・取組のまとめ活動と学習成果発表会等における実践報告（保護者、中学生、関係者、地域住民
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	等への報告) (2月)
平成 28 年 度	ア 管理職の取組 ・学校経営シラバスへのE S D活動推進の明記 (4月) ・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果の教職員周知 (4月)
	イ ユネスコ活動推進委員会等の取組 ・目標(生徒に身に付けさせたい力等)の全体提示, 共通理解 (4月) ・E S D全体構造図・全体計画作成, 全体提示 (4月) ・各教科・科目における取組指標作成, 全体提示 (4月) ・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果の教職員周知 (4月) ・先進校視察による効果的な実践事例等の情報収集 (8~11月) ・成果報告書の作成 (3月)
	ウ 教職員の取組 ・具体的取組の推進(中心的取組準備, 改善工夫, 実施, 各教科・科目でのアプローチ) (通年) ・各教科・科目の教育活動開始 (4月) ・校内研修会の実施(実践の方向性等の明確化, 視察報告・協議会報告等) (11月) ・E S Dに関わる公開授業, 研究授業, 合評会等の実施 (10月) ・学校評価(自己評価, 学校関係者評価等)へのE S D関係項目の導入, 評価の実施(実践の検証) (2月)
	エ 生徒の取組 ・キャリア教育に関わる活動, 生徒会活動, 課外活動等における自主的な活動の推進 (通年) ・取組のまとめ活動と学習成果発表会等における実践報告(保護者, 中学生, 関係者, 地域住民等への報告) (2月)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

教育課程上の全ての教科・科目, 総合的な学習の時間, 特別活動, 課外活動においてE S Dの理念を踏まえた教育活動を行ったが, 実施に当たっては, 中心的な取組(実践)となる教科・科目, 特別活動等を位置付け, それらを牽引役として, 他の教科・科目等へつなげ実施可能な部分(単元・授業内容等)からアプローチを行うこととした。また, E S Dを教育活動の主軸とした学校のE S D全体計画(シラバス)等を作成した。

[調査研究の概要]

- ア 【中心的な取組】: 「世界自然遺産・知床」等, 地域をフィールドとしたE S D活動(環境・地域学習)の実践 ~ E S Dの理念を踏まえたこれまでの実践の検証, 改善・充実 ~
- (ア) 学校設定科目「知床自然概論」(3年次選択科目) ※教科: 理科
(イ) 特別活動「知床自然体験学習」(1年次学校行事) ※関連教科: 理科
(ウ) 特別活動「史跡発掘体験学習」(1年次学校行事) ※関連教科: 地理歴史
(エ) 知床・産業系列等関連科目(課題研究, 観光ビジネス, 観光英語等) ※教科: 商業, 他
- イ 【波及1】: 総合学科教育活動・キャリア教育へのE S Dの波及(E S Dに位置付けての実践) ~ E S Dの理念を踏まえたキャリア教育の推進 ~
- (ア) 学校設定科目「産業社会と人間」(1年次必修科目) ※関連領域: キャリア教育
(イ) 総合的な学習の時間(2・3年次必修) ※関連領域: 言語活動・キャリア教育等
(ウ) その他の取組(インターンシップ等) ※関連領域: キャリア教育
- ウ 【波及2】: 各教科・科目, 特別活動等へのE S Dの波及 ~ E S Dの理念を踏まえた各教科・科目等における指導内容の関連付け(アプローチ)・指導方法等の工夫改善 ~
- (ア) 実践可能な部分(単元・授業内容等)におけるアプローチ
・E S Dの視点に立った協働的学習の導入 ~ 学力向上, 重視する能力・態度の育成~
(イ) 特別活動(生徒会活動, 学校行事)における取組の位置付け
・学校の持続発展につなげる生徒の自主的な活動の喚起(働きかけ)
- エ 【波及3】: その他(課外活動等)へのE S Dの波及
- (ア) 課外活動(部・同好会活動等)におけるアプローチ

(2) 具体的な研究活動

- ア 学校経営・学校運営上の位置付けの明確化
(ア) E S D活動の学校経営シラバスへの明記, 位置付けの明確化
(イ) E S D全体構造図等の作成による各教育活動のつながりの明確化
- イ E S Dの理念の学校の教育活動全体への反映

- (7) 校内研修会等を活用した進捗状況の交流等，学校全体の研究推進意識の醸成
 - (4) ESD全体計画の作成と各教科・科目等における取組のつながりの明確化
- ウ 地域の教育力の活用（地域とのつながり），小中学校との連携による取組の充実等

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

- 【中心となる取組】：「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたESD活動（環境・地域学習）の実践におけるOPPを通じた取組の検証
 - ・地域学習を推進するために各専門機関と連携し，地域の将来を担う人材育成という共通のビジョンの下に体験型学習を中心に充実した内容となることで，生徒の中に自らが生まれ育った地域に対して「誇りに思う」「守り続けていきたい」といった持続発展に向かう意識を醸成することができた。
 - ・知床・産業系列における科目「課題研究」では，斜里町役場商工観光課，斜里町農業協同組合，町内商店街などとの綿密な連携の下に，本校生独自の商品開発を行い，発表の機会を設けることで，生徒の自主性や他者と協働する態度，外部へ発信する能力などを養うことができた。
 - ・生徒の学びの場を校内に留めることなく，北海道環境学習フェアや北海道総合学科高等学校学習成果発表会などへ積極的に参加させ，大勢の人前で発表する機会を設けることで，批判的に考える力や多面的・多角的に考える力，外部に発信する能力などを養うことができた。
 - ・知床産業系列における観光系の授業において，斜里町の観光地を紹介する英語版電子パンフレット作成の取組を通して，地域の魅力を再発見し，語学学習への興味関心を引き起こすなど，生徒のキャリア形成に好影響を与えた事例を数多く得ることができた。
 - ・各取組の前後における生徒の変容を確認することで，教育的効果を教員全体で共有でき，教員集団としてのベクトル合わせが進み，「ESDカレンダー」の作成という形で集約することができた。
 - ・近隣のESD推進校である，斜里町立知床ウトロ学校，留辺蘂高校，標津高校との連携事業や視察・交流等を通じて，本校のESD活動に還元を図ることができた。
- 【波及1】：総合学科教育活動・キャリア教育の改善・充実（ESDに位置付けての実践）に係るOPPによる検証
 - ・「産業社会と人間」や総合的な学習の時間の活用など，キャリア教育に関する各取組の意義とつながりを意識した全体計画の作成を通じて，より教育的効果の高い独自のキャリアプログラムの構築を進めることができた。
 - ・自己のキャリア形成のために大学生と高校生が交流し，望ましい在り方生き方を考えるきっかけとする「カタリ場」の新規導入により，取組の事前指導及び実施後のOPP等により，生徒の琴線に触れるキャリアプログラムを実施することができた。
 - ・インターンシップの実施におけるOPPの活用を通して，生徒のキャリア形成に大きく役立てることができた。
 - ・総合的な学習の時間を利用した「ゼミ活動」では，教員の充実した指導体制の下，年間を通じた学習とその成果を発表する機会を通じて，生徒のキャリア形成及び外部に発信する能力や批判的に考える力を養うことができた。
- 【波及2】：各教科・科目，特別活動等へのESDの波及に係るOPPによる検証
 - ・校内研修会等を重ねることで，観点別評価を確立することができた。
 - ・ESDの視点に立った主体的・対話的な学習の積極的導入，授業研究の実施（今年度3回），生徒による授業改善アンケートの実施を通じて，学力向上に向けた授業改善を図ることができた。
 - ・「見直そう！SNSマナー」（いじめ未然防止に係る取組），「書き損じはがき回収運動」（グローバルな視点に係る実践），「熊本地震募金」（ボランティア活動）等を通じた学校の持続発展につながる生徒の自主的な活動（生徒会活動）を喚起することができた。
 - ・研修の成果を教職員全体でシェアすることを通して，校外への研修会への意欲的参加につながることもできた。
- 【波及3】：課外活動等へのESDの波及
 - ・ボランティア同好会を中心とした，地域と連携した各種取組への積極的参加（年間40回程度）を通して，地域を持続発展させる人材の育成へとつなげることができた。

(2) 今後の取組

- 外部関係機関，外部講師等との連携強化を図るための委員会の設立
- 各取組における生徒の変容を把握するための評価（1枚ポートフォリオ）の実施方法の改善，分析方法の確立・分析結果の次年度実践への反映
- 各取組における評価方法等の検討
- 教職員の意識改革（観点別評価の推進，評価規準の設定，等）
- 生徒の自主的活動を喚起する働きかけの継続・工夫